

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 8月28日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-248061

[ST.10/C]:

[JP2002-248061]

出 願 人

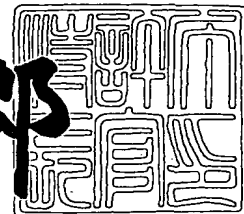
Applicant(s):

菊水化学工業株式会社

2003年 1月31日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3002462

【書類名】 特許願

【整理番号】 46P07

【提出日】 平成14年 8月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G09F 5/00

【発明者】

【住所又は居所】 岐阜県各務原市松本町2丁目457番地 菊水化学工業株式会社内

【氏名】 倉知 和紀

【特許出願人】

【識別番号】 000159032

【氏名又は名称】 菊水化学工業 株式会社

【代表者】 遠山 昌夫

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 019943

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 凡例付き色見本

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 色彩付き図と共に、この図を構成する複数の色に対応する複数色塗り見本を配置してなることを特徴とする凡例付き色見本。

【請求項 2】 請求項 1 記載の色彩付き図が、自然、人物、人造物あるいはこれらを組み合わせた物であることを特徴とする凡例付き色見本。

【請求項 3】 請求項 1 または請求項 2 記載の色彩付き図が、写真であることを特徴とする凡例付き色見本。

【請求項 4】 請求項 1 ないし請求項 3 の一つに記載される塗り見本が、基調色、副調色および強調色を示すものであることを特徴とする凡例付き色見本。

【請求項 5】 一枚の台紙あるいは一連の台紙に、請求項 1 ないし請求項 4 のいずれか一つに記載の図及び図に対応する塗り見本を複数組配置してなることを特徴とする色見本帳。

【請求項 6】 色見本帳に配置される図の基調色が同系統の色調からなることを特徴とする請求項 5 に記載の色見本帳。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、建築物の内装あるいは外装、あるいは、室内調度品、室内装飾、屋外構造物などの色彩等の配色を選定するに有効な色見本あるいは色見本帳に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、色見本、色見本帳を利用した色彩の提案が行なわれ、建築物の内装あるいは外装、あるいは、室内調度品、室内装飾、屋外構造物などに使用される建築材料、塗料、調度品、装飾、構造物の色彩が選択されていた。

【0003】

その際利用される色見本あるいは色見本帳には、大きく分けて 2 つの種類が有

り、単票である色見本に一色だけの塗り見本を配し何枚かの色見本を組み合わせた色見本帳としたもの、あるいは、一枚の色見本に複数の塗り見本を配したものが有った。この発明は、後者の色見本についての技術に関するものである。後者の一葉に複数の色見本が例示される場合は、色相が類似した色見本より需要の大きい色を抽出・選択して5～10色配列してあったり、ほぼ同義となるが、マンセル系の色相（例えば、R、YR、Y、GY、G、BG、B、PB、P、RP）毎に明度を変化させたり、彩度を変化させた色見本を5～10色配列したものであったり、色相とトーン（明度と彩度の複合概念）を組み合わせで配列したものが有った。

【0004】

これまでの記述の中、色見本は塗り見本により作成される旨の説明となっているが、所定の色が現れるようにした塗料を塗りつけたものの他、印刷、写真であっても構わない。

【0005】

トーンを分類し紹介したものとして、財団法人 日本色彩研究所編集により1986年発行の「PCCS Harmonic Color Charts 201」があり、トーンの例に、white：白、pale：薄い、light：浅い、bright：明るい、vivid：さえた・あざやかな、soft：柔らかい・穏やかな、strong：強いがある。

【0006】

この発明では、便宜上色見本とは、所定の色が一つあるいは複数印刷あるいは塗装された単票のことを示し、色見本帳とはこの色見本を複数組み合わせたものを示す。また、一般には色見本のことをカラーカードと呼ぶことがある。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、色相と明度あるいは色相とトーンを組み合わせた色見本が有ったとしても、これを建築物の内装あるいは外装、あるいは、室内調度品、室内装飾、屋外構造物などの色選択を行う際は、選択する人の感性に頼ったものとなっていた。

【 0 0 0 8 】

この発明は、上記のような従来技術に存在する問題点に着目してなされたものである。その目的とするところは、色彩設計を行う際、設計の対象物に対して調和を求めるものを設定し、調和がとれた色彩付き図を示し、この図を構成する色を示すことによって、配色の選定を容易にすることを目的としている。

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、請求項 1 に記載の発明の色見本は、色彩付き図と共に、この図を構成する複数の色に対応する複数色塗り見本を配置してなることを要旨とする。

【 0 0 1 0 】

請求項 2 に記載の発明の色見本は、請求項 1 に記載の発明において、色彩付き図が、自然、人物、人造物あるいはこれらを組み合わせた物であることを要旨とする。

【 0 0 1 1 】

請求項 3 に記載の発明の色見本は、請求項 1 または請求項 2 に記載の発明において、色彩付き図が、写真であることを要旨とする。

【 0 0 1 2 】

請求項 4 に記載の発明の色見本は、請求項 1 ないし請求項 3 の一つに記載される塗り見本が、基調色、副調色および強調色を示すものであることを要旨とする。

【 0 0 1 3 】

請求項 5 に記載の発明の色見本帳は、一枚の台紙あるいは一連の台紙に、請求項 1 ないし請求項 4 のいずれか一つに記載の図及び図に対応する塗り見本を複数組配置してなることを要旨とする。

【 0 0 1 4 】

請求項 6 に記載の発明の色見本帳は、請求項 5 に記載の色見本帳において色見本帳に配置される図の基調色が同系統の色調からなることを要旨とする。

【 0 0 1 5 】

以下にこの発明を構成する要素について説明する。

この発明の自然とは、山、川、森、海、空などの自然の風景、動植物を鳥瞰しあるいは虫瞰し、顕微鏡で写した図が例示される。人物とは、人が着衣した場合および非着衣した場合、全身ないし身体の一部そして人の集合状態から得られるものまでを含む。また、人は起立していても横になっていても、椅子などに着席していても、運動している状態であっても良い。人造物とは、機械、器具、家具、衣服、車、船、家、建築物、構築物など工業生産されるもの、および、個人の技能によって創作、生産される工芸品、絵画、写真などあるいはその複製物がある。

【 0 0 1 6 】

これらの自然、人物、人造物は、単独状態で存在する場合も、複数のものが組合わさって存在する場合も有り、そのどちらもが図として利用可能である。例えば自然風景の中に人を入れた図では、自然と人物が組み合わさったこととなるが、その図の主題が何であるかにより、自然の図であるか、人物の図であるか等を分類しても良い。

【 0 0 1 7 】

この発明の絵とは、人が人物あるいは風景を描いたものから、作者の想像力によって描かれたものまでを含む。絵を描くための手段については、水彩、油絵、版画、エッチング、スクリーン印刷など種類は問わない。また、公知となった著作物であるこれらの絵は、直接色見本の図に用いることは工業生産に適したものでないため、写真にして用いるのが実用的となる。

【 0 0 1 8 】

この発明の写真とは、上記自然、人物、人造物あるいはこれらの組合せを撮影したもののことである。銀塩式のものであってもデジタル式のものであっても、印画紙に焼き付けた物であっても、プリントされた写真をもとに印刷物としたものであっても良い。

【 0 0 1 9 】

この発明の色見本では、上記自然等から得られる図と複数色の塗り見本から構成される。また、この複数色の塗り見本は、前記の図を構成する複数の色に対応

するものとなっている。従って、墨絵のように単彩色で構成される図は含まない。色見本の平面上の構成では、図と塗り見本の大きさと位置関係については、種々の可能性があり、どのような大きさ、配置にするかは設計者の思想により任意事項となる。なお、下記の実施例では、長方形の色見本に於いて、図を片隅に配置し、その余の空間に塗り見本を5色配置したものとした。別の実施例では、長方形の色見本に於いて、片隅から1/3程の位置に図を配置し、余った空間の狭い方に、基調色である塗り見本を配し、余った空間の広い方に、副調色及び強調色を合わせて4色配置した。

【0020】

塗り見本は、一つの図に対し2～6色の組合せをもって構成される。好ましくは、一つの図に2～4色の組合せである。塗り見本に塗られる色は、色彩付き図を色毎の面積で分けたときの大小により抽出される。概ね図中50%～80%の面積を占める色を基調色とし、10%～35%の面積を占める色を副調色とし、1%～15%の面積を占める色を強調色として、分類分けすることができる。なお、面積による大小比較が困難である場合に、基調色を図中の低明度および／または低彩度な色を選択することもある。

【0021】

一般に、基調色は図全体の印象を与える色であり、副調色は基調色とは異なる色であり、図に変化を与えることのできる色であり、強調色は図の印象を引き締める色であるとしている。図を構成する色を実際に3色ないし6色に分類するのは困難ではあるが、基調色を決めた後、副調色には基調色に比べ濃い色あるいは薄い色が抽出される。通常は、基調色が濃色である場合、即ち低明度および／または高彩度にあるときは、基調色に比べ高明度および／または低彩度の色となり、逆に基調色が淡色である場合、即ち高明度および／または低彩度にあるとき、基調色に比べ低明度および／または高彩度の色となる。また、この時の色相は同じものあるいは近いものが抽出される。

【0022】

強調色は、ある図の中にアクセント的に存在する色であるので、図がほぼ類似の色相により構成される場合は、副調色より更に低明度および／または高彩度あ

るいは高明度および／または低彩度の色となる。また、図が種々の色から構成される場合は、基調色、副調色の色相からみてできるかぎり対照的な位置の色より抽出される。どちらの場合も、色を数値化したときの色差の大きくなる色から抽出される。

【0023】

一つの図に対応する基調色塗り見本は一つとするが、副調色および強調色の塗り見本の数2または3とすることが望ましい。しかしながら、4以上とすると、色見本あるいは色見本帳使用時の色選択が困難となる虞がある。この範囲であれば、色の選択が容易なものとなる。

【0024】

見本帳は、上記色見本を一枚の台紙あるいは一連の台紙に複数組配置してなるものであって、実際の色選択に当り、設計の対象物に対して調和を求めるものの候補を数点挙げて、色選択に適したものとなる。例えば、一枚の台紙に複数の色見本を配置する際、図と塗り見本を一行あるいは一列に並べ、複数の色見本を一枚中に納めることができる。

【0025】

上記見本帳に於いて、図の基調色の色相が類似したものであるとき、色を選択する者が、例示される図との関連において色選択を行うことになっているため、調和の対象物として、より調和の得られるものを選択して色を選ぶことが可能となる。

【0026】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施形態を図面に基づいて詳細に説明する。

図1には、実施例1として、一枚の台紙に一組の色見本10を平面図により示している。図中一番左に配置されたものが、山の自然風景を示す図1であり、写真によって示されている。その右隣りに基調色である色相2.5PBにあり青みのうすい灰色の塗り見本、続けて色相5Gにあるやわらかい黄緑色のひとつである若葉色の副調色塗り見本、色相5GYにあり暗い緑色のひとつであるもえぎ色の強調色塗り見本、色相10PBにあるうすい青紫色の副調色塗り見本を配置した

ものとしている。図中、符号 1 が色彩の付いた図であり、符号 2 が基調色塗り見本、符号 3 が副調色塗り見本、符号 4 が強調色塗り見本、符号 1 0 が色見本を示している。図は写真をそのまま貼り付けたものであり、塗り見本は所定の色のエマルションペイントを別の紙に塗りつけたものを貼り付けている。

【 0 0 2 7 】

図 2 には、実施例 2 として、別の配置例を示す色見本を平面図により示している。色見本の左端より基調色塗り見本、植物である睡蓮が咲いている状態の自然風景を示す図、副調色塗り見本、強調色塗り見本、副調色塗り見本、強調色塗り見本を配置したものとしている。この時の塗り見本の色は、順に色相 7. 5 G Y にあるごくうすい黄緑色、色相 1 0 G Y にあるうすい黄みの緑色、色相 1 0 G Y にあるつよい黄みの緑色、色相 7. 5 P にあるうすい紫色、色相 7. 5 P にあるあざやかな紫色であるパープルとしている。図は写真から版を起こし、印刷したものであり、塗り見本は所定の色のエマルションペイントを別の紙に塗りつけたものを貼り付けている。

【 0 0 2 8 】

図 3 では、実施例 3 として、上記実施例 1、同 2 とは別の配置例を示す色見本を平面図により示している。色見本の左端より強調色塗り見本、基調色塗り見本、強調色塗り見本、副調色塗り見本、副調色塗り見本、夕焼けの雲を示す図を配置したものとしている。この時の塗り見本の色は、色相 2. 5 P B にある暗い青色のひとつである藍色、色相 5 R P にあるごくうすい赤紫色、色相 5 R P にあるくらい赤紫色、色相 5 R P にあるくすんだ赤紫色、色相 1 0 B にあるくすんだ青色としている。実施例 3 では、このように基調色の両側の位置に強調色を配し、基調色、強調色それぞれが比較されることにより、色の配色を検討する際の印象を理解し易いものとしている。図は写真から版を起こし、印刷したものであり、塗り見本は所定の色のエマルションペイントを別の紙に塗りつけたものを貼り付けている。図は写真から版を起こし、印刷したものであり、塗り見本は所定の色のエマルションペイントを別の紙に塗りつけたものを貼り付けている。

【 0 0 2 9 】

図 4 では、実施例 4 として、色見本帳の例を平面図により示している。図中の

符号 20 は色見本帳全体を示している。この実施例では、6 組の色見本を一枚の台紙に納めたものとなっていて、最左列に図、図の右横には、それぞれの図に対する基調色、副調色、強調色をランダムに並べたものである。尚、実施例 4 では基調色と他の副調色、強調色との比較を容易にするため、基調色を両端に配置するケースを除くようにしている。

【0030】

図 5 では、実施例 5 として、色見本帳 20 の例を外観斜視図により示している。この実施例では、10 枚の色見本を短冊状とし、その一端に余白を設けたものとなっている。余白部分には、10 枚の色見本を綴じるための穴を設け、留め金具によって綴じられ、必要なあるいは比較したい色見本のみを拵げた角度において、並べることにより利用することができる。

【0031】

次に、前記のように構成された色見本の作用を説明する。

請求項 1 の構成による色見本では、色彩付き図とともに図を構成する複数の色に対応する複数色塗り見本を配置してあるので、色を選択しようとするものが、具体的なイメージを基にして図を選択することができるようになる。

【0032】

請求項 2 の構成による色見本では、請求項 1 に比べ、図がより具体的な自然、人物、人造物あるいはこれらを組み合わせた物であることにより、図の選択をより容易にしている。

【0033】

請求項 3 の構成による色見本では、請求項 1 あるいは請求項 2 の発明に比べ、図を写真とすることによって、自然を色彩付きでそのまま表すことが可能となり、より具体的かつ調和のとれた、色の組合せとして示すこととなり、身近な素材から、色の組合せを選択することができる。

【0034】

請求項 4 の構成による色見本では、請求項 1、請求項 2 あるいは請求項 3 の発明に比べ、塗り見本を基調色、副調色および強調色を示すものとして、選択された色が、調和のとれたものとなる。また、色の選択において既に色の決定してい

る部材、部分を強調色と見ることによって、他の基調色、副調色を選択することや、前者を基調色と見て、他の副調色、強調色を選択することもできる。

【0035】

請求項5の構成による色見本帳では、色見本の組合せを、一枚あるいは一連の台紙にまとめることにより、色を選択しようとするものが、比較検討しながら調和のとれた色の組合せを選択することができる。

【0036】

請求項6の構成による色見本帳では、請求項5の発明に比べ、一枚あるいは一連の見本帳に収納される色見本が同系統の色調から構成されるので、基調色が同系統であっても、比較対照とする図とのイメージ合わせにより容易に色選択ができる。また、色選択に入る前にどんな色の系統から選びたいという意志が弱い場合にあって、図の部分と並べ図から受けるイメージから色の選択に入ることができる。

【0037】

また、前記実施形態から把握できる技術的思想について以下に記載する。

- ・ 色見本に配置される図を写真とすることができる。

写真は自然を色彩付きでそのまま表すことが可能となり、より具体的に調和のとれた、色の組合せを選択する根拠とすることができる。

【0038】

- ・ 色見本に配置する塗り見本を、所定の色のエマルジョンペイントを別の紙に塗りつけたものとすることができる。

色の提案に当たって、表示される色の正確さは写真以上に同一の色が表示されることを要求される。銀塩写真の焼き付けあるいはカラー印刷では、色の再現に有る程度幅が生じてしまう。塗料では、色の管理幅が正確に狭いものであり、それを紙に塗りつけ、乾燥させたものも色の再現に正確なものが得られる。

【0039】

- ・ 色見本における基調色と強調色の配置を、基調色を中央においてその両側に強調色を配置することができる。

基調色と強調色には、通常色相の対照あるいはトーンの対照による調和関係が

存在しているが、具体的に基調色の隣り位置に強調色を配置することにより、視覚により直接確認でき、色彩計画を立てる際のイメージを捉えることが容易になる。

【 0 0 4 0 】

- ・ 色見本帳として、一枚の台紙の上に複数組の色見本を表示させることができる。

複数組が一度に表示されることにより、色の組合せを考える対象物の色を基調色、副調色あるいは強調色の一つとして固定し、他の色の選択を行うことができる。

【 0 0 4 1 】

さて、上記した実施例に加え、構成を以下のように変更して利用することができる。

- ・ 色見本の形状を短冊状にすることができる。

短冊状であることにより、保管あるいは持ち運びに適したものとなる。

【 0 0 4 2 】

- ・ 色見本の形状を短冊状にし、その一端あるいは両端に余白を設けることができる。

この余白部は色見本を複数枚綴じて見本帳とするための綴じ代あるいは手に持つ時の塗り見本を汚さなくするための部分とすることができる。綴じ代のある色見本は、簡単に色見本帳としてまとめることができる。

【 0 0 4 3 】

- ・ 色見本を短冊状にし、その一端に綴じ代を設け、複数枚の色見本を綴じた色見本帳とすることができる。

短冊を綴じた形の色見本帳は、持ち運びが容易であり、収納に要する面積を小さくすることができる。また、片端で綴じられた色見本帳は、色見本の複数枚の比較したい色のみ色見本帳から離れた角度に拡げて、色の比較をすることができる。

【 0 0 4 4 】

- ・ 色見本に配置される色の説明を、色見本の裏面あるいは色見本と同じ大き

さの紙等に表示することができる。色の説明には、色名、色名の由来、トーン系列、該当JIS明度・彩度範囲、マンセル値がある。色名には、ISCC-NBS色名、系統色名（日本色研）、JIS一般色名、慣用色名、伝統的色名、色料名などがある。

色の説明のある色見本は、利用者の色名による選択に幅を広げ（例えば、イメージ作り）、選択における基準を与えることができる（例えば、トーンが同じで異なった色あるいは特定のトーンに属する色を選択する）。

【0045】

- ・ 色見本に配置される図および塗り見本の間隙間を設けることができる。

隙間を設けることにより、図と塗り見本あるいは塗り見本相互間の境界が明瞭になり、塗り見本として配置される個々の色の確認が容易になる。隙間部分の色は、白色が好ましく、塗り見本同士あるいは、塗り見本を利用する場所における、環境からの影響を小さくすることができる。

【0046】

- ・ 見本帳における図を自然のみにまとめることができる。

図を自然のみにまとめることにより、見本帳を利用が、建築物の内装あるいは外装、あるいは、室内調度品、室内装飾、屋外構造物である時、周りとの調和をより具体的に視認しながら選択できることになる。自然から得られる図は、普段から目に親しんだ色の調和を持つものであり、基調色、副調色、強調色相互間の調和に不自然さが無いものとなる。

【0047】

- ・ 見本帳の図を特定の作者による絵画、写真にまとめることができる。

絵画、写真の作者が、特定の者である時、その作品に特定の色への傾倒が見られることがある。そして、それらの作品を飾る場所の室内装飾を検討する際には、作品との調和を検討することとなる。予め、作品の基調色、副調色、強調色が示されていることにより、ある作者の作品を飾る場合の、室内装飾を容易にすることができる。

【0048】

- ・ 見本帳の形を二つ折り、三つ折り等折り畳んだ形とし、数頁分をまとめた

形で作成することもできる。

ひとまとまりの見本帳に、頁毎にグループ分けした図を納め、頁毎に見やすく配置した図および塗り見本を並べて、色の選択をより容易にすることができる。

【 0 0 4 9 】

【発明の効果】

この発明は、以上のように構成されているため、次のような効果を奏する。

請求項 1 に記載の発明の色見本によれば、単に塗り見本を色の系統によって並べた色見本に比べ、色彩付き図によって例が示され、その図を基に調和のとれた色の組合せを選択することができる。

【 0 0 5 0 】

請求項 2 に記載の発明の色見本によれば、請求項 1 に記載の発明の効果に加え、図がより具体的な自然、人物、人造物あるいはこれらを組み合わせた物であることにより、図の根拠をより身近なものに求めることができ、人の感性へ訴えやすいものとすることができる。

【 0 0 5 1 】

請求項 3 に記載の発明の色見本によれば、請求項 1 又は請求項 2 に記載の発明の効果に加え、図が写真であることにより、より具体的かつ身近なものからの選択の機会を与えることができる。

【 0 0 5 2 】

請求項 4 に記載の発明の色見本によれば、請求項 1、請求項 2 又は請求項 3 に記載の発明の効果に加え、塗り見本が基調色、副調色および強調色によって示ることにより、色の組合せに変化と調和を感じさせるものとなる。

【 0 0 5 3 】

請求項 5 に記載の発明の色見本帳によれば、複数の色見本を一枚、一綴りにまとめたものとし、持ち運び、あるいは色の組合せの比較検討が容易となる。

【 0 0 5 4 】

請求項 6 に記載の発明の色見本帳によれば、請求項 5 の発明の効果に加え、一枚の色見本帳あるいは一連の見本帳に色の系統、色のトーン、自然の四季等の条件で分類された、塗り見本を配置させることが可能になって、色の選択を行うも

のが前記分類分けされた色本帳を基に、色の組合せを容易に選ぶことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 この発明の実施例 1 による色見本の平面図。

【図 2】 この発明の実施例 2 による色見本の平面図。

【図 3】 この発明の実施例 3 による色見本の平面図。

【図 4】 この発明の実施例 4 による色見本帳の平面図。

【図 5】 この発明の実施例 5 による色見本帳の外観斜視図。

【符号の説明】

1 … 図。

2 … 基調色塗り見本。

3 … 副調色塗り見本

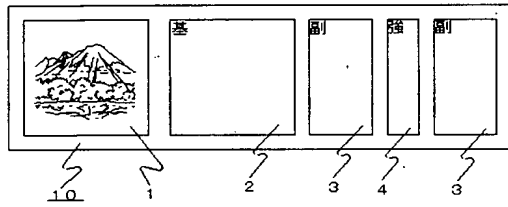
4 … 強調色塗り見本。

1 0 … 色見本。

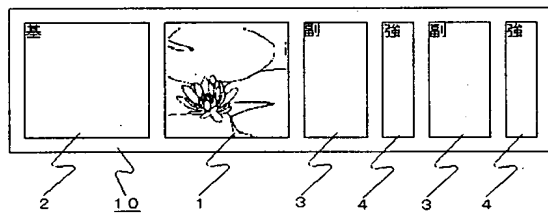
2 0 … 色見本帳。

【書類名】 図面

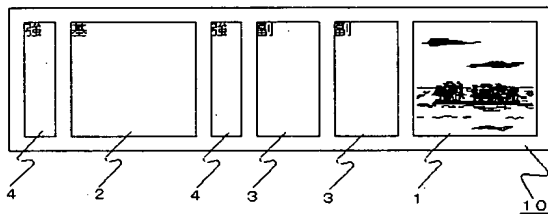
【図 1】



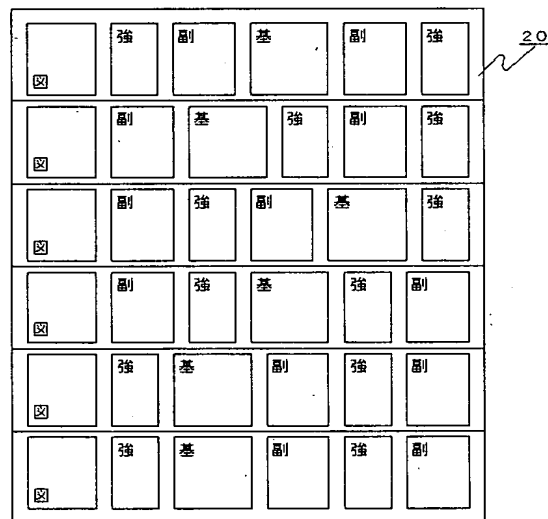
【図 2】



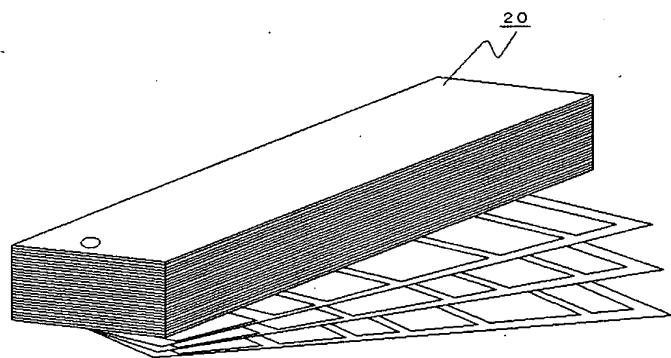
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 建築物の内装あるいは外装、あるいは、室内調度品、室内装飾、屋外構造物などの色彩等の配色を選定するに有効な色見本あるいは色見本帳を提供する。

【解決手段】 色見本では、色彩付き図と共に、この図を構成する複数の色に対応する複数色塗り見本を配置する。色彩付き図は、自然、人物、人造物あるいはこれらを組み合わせた物であること、ないしは写真であること。塗り見本が、基調色、副調色および強調色を示すものであること。

【効果】 色見本では、単に塗り見本を色の系統によって並べた色見本に比べ、色彩付き図によって例が示され、その図を基に調和のとれた色の組合せを選択することができる。色見本帳では、複数の色見本を一枚、一綴りにまとめたものとし、持ち運び、あるいは色の組合せの比較検討が容易となる。

【選択図】 図3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000159032]

1. 変更年月日	1999年 1月25日
[変更理由]	住所変更
住 所	愛知県名古屋市中区丸の内二丁目7番24号 小塚ビル
氏 名	菊水化学工業株式会社